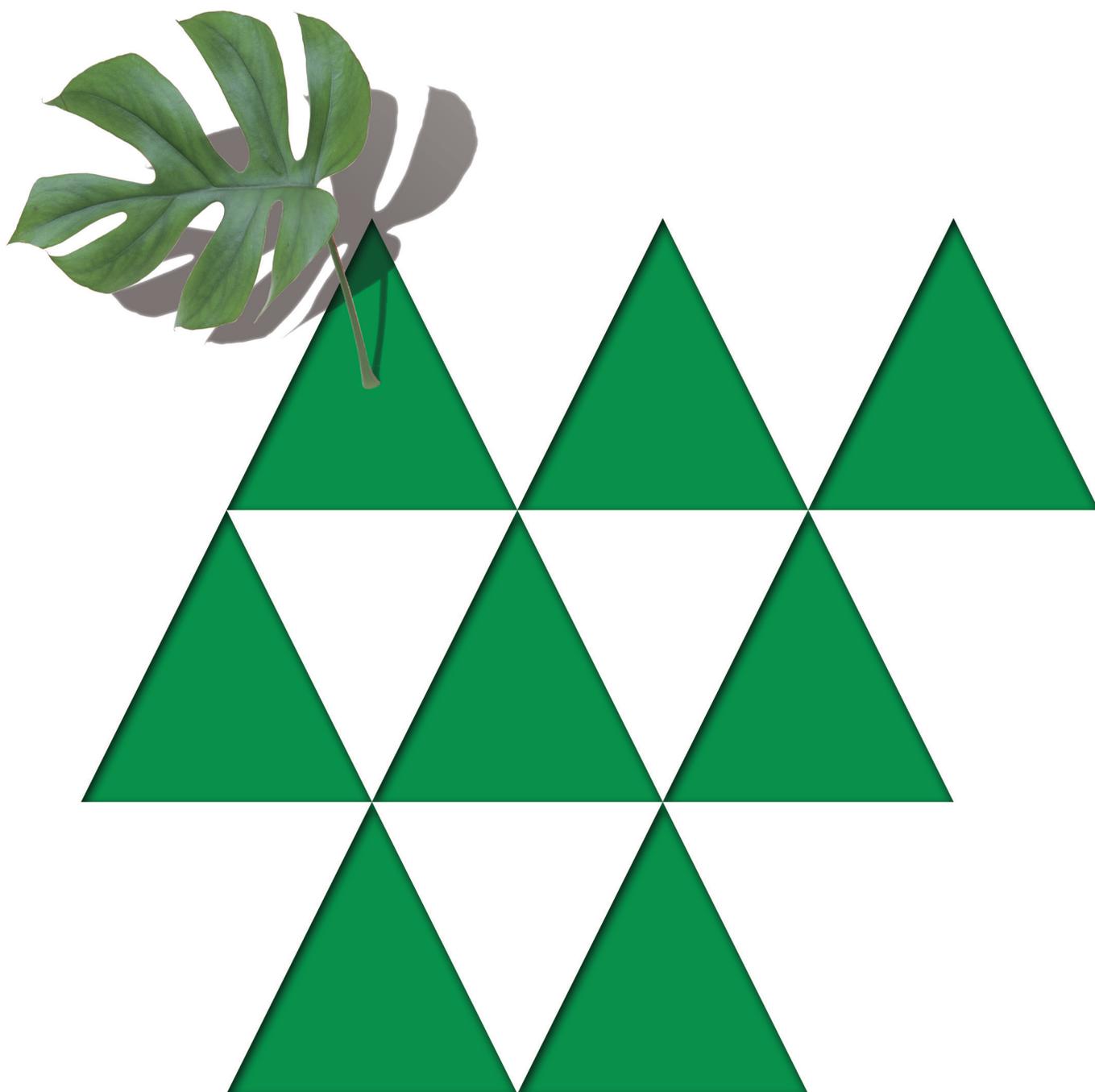


生涯學習情報誌

Life Learning

8 2017
Aug.
NO.324



募集
開始

2017(平成29)年度

博士号

取得支援事業

生涯学習開発財団は、「人間は感動する心を失わず、何ごとかを学び続ける限り、年齢にとられない生き方をすることができる」という理念のもと1983年に設立されました。

平均寿命が延びる今、定年後も学習を継続し、社会へ貢献し続ける中高年の存在は、日本社会にとって大きな支えとなります。

財団では、現在博士号の取得を目指す50歳以上の方々を対象に、2011年度から支援事業を行っております。この取り組みを通して、来るべき高齢化社会の生涯学習を促進し、よりよい社会作りにも貢献することをめざしています。

本事業は、国籍や性別を問わず、また、研究領域は文系・理系を問いません。独創的で社会的な意義のある研究を行い、博士論文を執筆中あるいは提出が予定されているすべての方に門戸は開かれています。皆様からの積極的なご応募をお待ちしております。

■ 採用予定人数

特に人数は定めません。

■ 助成金の支給

- ・支給金額は一人あたり年間50万円
- ・支給期間は1年
- ・支給日は2018年3月

■ 応募資格

以下の条件を満たす者

- ・50歳以上（性別、国籍、所属を問わない）
- ・日本国内に在住している者
- ・博士課程（博士後期課程を含む）に在籍するか、論文博士号の取得をめざし、かつ実行性の高い研究計画書を作成した者、もしくは博士論文の一部をすでに作成した者

・日本国内の大学で博士号を取得する予定の者

- ・日本語で論文を作成する者
- ・品行方正、勉強に熱意を持っている者

■ 応募方法

(1) 提出書類

- ・指定申請書
- ・身元証明書
- ・研究計画書
- ・推薦書 ほか

詳細は募集要項でご確認ください

(2) 応募締切日

2017年12月15日(金) 必着

■ 選考

提出書類および面接により選考

お問合せと募集要項の請求は下記まで



一般財団法人 生涯学習開発財団 博士号取得支援事業部
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-21 新虎ノ門実業会館2階 TEL 03-3508-4551
募集要項・申請書は <http://www.gllc.or.jp> E-mail hakushi@gllc.or.jp

祝

2016年9月 岡山大学博士号(農学)取得

坂上信忠さん(取得時53歳)

【論文テーマ】電気化学的呼吸量測定による豚胚の客観的評価と胚移植による種豚生産システムの開発に関する研究

「農場主か研究者になりたい」子供時代の夢が、どちらも近い形で現実に

■諦めていた学位申請が財団の支援で叶う

「子供のころは農場主に、そして大学在学中には研究者になりたいと思っていましたが、家庭の事情で大学院を断念し、神奈川県職員のになりました。しかし、業務の中で研究テーマが見えてきて、異動した畜産研究所(現・畜産技術センター)で研究を進めました。とはいえ、子供の学費、家のローン、老後資金などを踏まえ、学位取得は難しいと考えていました。しかし、あるとき妻が朝日新聞で生涯学習開発財団の博士号取得支援事業の記事を見つけてくれました。また同時期に、受精卵研究の第一人者、岡山大学の舟橋弘晃先生と一緒に仕事をする機会がありました。公務員ですから、異動になると研究継続はできないかもしれません。最後のチャンスと思い、博士号へのチャレンジを決めました。財団への最初の応募は落ちましたが、選考に漏れるということは内容が未熟だったのでしょう。舟橋先生の指導もいただいて、2度目の申請で合格をいただきました。財団には非常に感謝しています」

■疫病リスクの低い種豚生産システム

日本の国産の豚肉は、肉量の多い種豚、子育てのうまい種豚、肉質の良い種豚を交配する三元交雑手法により生産されている。こうした能力の高い種豚の導入は、生産者にとって経済効果がとても大きい。しかし、優良な種豚は生体で導入されることが一般的であるため、病原体を農場内へ持ち込む危険性がある。畜産業、特に養豚経営にとっては、伝染病の発生は大きな問題だ。2010年に宮崎県で発生

した牛と豚の口蹄疫では、損失は1400億円にのぼったとされる。また、13年には届け出伝染病の豚流行性下痢が発生し、約30万頭が発症した。

本研究の目的は、受精卵移植技術によって、生体移動による疾病伝播リスクを低減し、低コストの種豚生産システムを構築すること。そのため、工芸技術を活用して受精卵を呼吸量で評価し、凍結や輸送に強い受精卵となる条件を解明したところに、新規性と高い実用性が認められた。

■多分野の知見を結集して実用面で強化

今回、専門の生物学に加え電気工学を融合させ、新たな視点から取り組んだことが評価されたと考えている。さらには、受精卵を輸送する容器として振動が伝わりにくい素材を探し、低温保存の適切な温度や炭酸ガス濃度を求めるなど、実用をふまえた多

面的な探求がされている。

現在、日本の畜産業界を取り巻く状況は大きく変化している。TPPやFTAの動向にもよるが、近い将来に豚肉の関税は完全撤廃され、国際競争に巻き込まれる。農林水産省は、国内の豚肉生産者は3割程度しか残らないだろうと推測している。坂上さんは、研究知見を基礎として、コスト面や衛生面でより有益な技術を現場に提供し、生産者が世界と胸を張って競争できるよう役立ちたいという。

また、英語による研究発表を積極的にしていきたいと考えている。なぜなら、日本の養豚の生産技術は世界に誇れるもので、英語による発表は学術面で世界にアピールするだけでなく、輸送器の価格の問い合わせや、医療機関が凍結保存器具に興味を示すなど、実用面での打診にもつながっているからだ。

■勉強する姿を子どもに見せられて良かった

「企業に勤務しながら大学に通い、博士号を取得するのはみなさん大変だと思います。たまたま私の職場は、研究所なのに博士がいなかったこともあって博士号取得を奨めてくれ、取得時には50人以上が集って祝ってくれました。神奈川県畜産農家は、数は多くはありませんが、6次産業化を図るなど頑張っています。研究を後押ししてくれた皆さまに感謝し、今後の発展に役立てればと考えます。

自宅に持ち帰って論文を書くことも多かったのですが、妻や子供たちが資料整理を手伝ってくれるなど協力してくれました。そして、勉強する姿勢を子供たちに見せられたのは良かったと思います」



職場である神奈川県畜産技術センターのホームページの前で、今後に向け決意を新たにする坂上さん。

「二元的家族観に縛られない 新しい働き方の意識を育むには」

シンポジウムの1か月ほど前、ある紙おむつのCMが、母親のいわゆるワンオペ育児を賛美するものではないかとネットで批判にさらされた。一方で、対比的に絶賛されたのが外資企業の紙おむつのCMで、地域のいろんな人たちの助けを受けながら子育てをする姿が描かれている。

講師の白河桃子氏はこれを、「働き方」に対する経営者の意識の差だと評する。日本企業の多くは、働き方改革や女性の登用をスローガンとして掲げながらも、まだどこかに「しかたなく」という意識が透けて見える。人口ボーナス期だった昭和の日本では、均一人が長時間働くことが国の発展を支えた。現在の人口オーナス期には、多様な人が多様な働き方をするのが求められるのだが、昭和の成功体験を引きずる企業がまだたくさんあるのだ。

■ 企業を本気にさせる3つのショック

働き方改革は、働く人にとって暮らし改革であると同時に、企業にとっては経営改革そのもの。早くから改革に取り組んできた企業の経営者は、ニコニコして成功談を語るといふ。しかし、本気度が低かった企業も変わらざるを得なくなる、3つのショックが続けて起きた。

女性に優しい企業の

代表だった資生堂が、育児中女子社員の時短勤務が他の社員へのしわ寄せが多いとして、育児中であっても、夫と相談するなどして遅番や休日出勤を促すなど見直しをした。

電通社員の長時間労働による自殺は、企業風土としての働き方も問題になり、社長辞任に発展するほどの事件になった。

ヤマト運輸は残業代不払い問題を踏まえ、サービスの縮小や値上げを宣言。配達員の

残業に頼ったビジネスモデルの限界を認め、サービスより人へと舵を切った。

これらは、働き手が不足する中、女性だけでなく社員をつなぎとめたい企業の、変わらざるを得ない象徴と言える。

■ 意外と一気変わる日本人の意識

働き方改革の柱は、残業時間の上限と同一労働同一賃金だ。ただ会社が「残業する



2017年6月3日 東京大学 福武ホール

講師：白河桃子 少子化ジャーナリスト/作家/相模女子大学客員教授

内閣官房「働き方改革実現会議」「一億総活躍国民会議」民間議員、その他政府地方自治体の委員など多数。東京生まれ、私立雙葉学園、慶応義塾大学文学部社会学専攻卒。住友商事、リーマンブラザーズなどを経てジャーナリスト、作家に。仕事結婚出産のライフデザイン、女性のキャリア、働き方改革について発信している。少子化対策、女性のライフキャリア、男女共同参画、女性活躍推進、不妊治療、ワークライフバランス、ダイバーシティ、働き方改革などがテーマ。大学生、高校生のために「産むと働くの授業」を提唱。『御社の働き方改革、ここが間違ってます! 残業削減で伸びるすごい会社』(PHP新書) など著書多数

計する必要があるのだ。

制度やツールを導入しても、男女の働き方に対する意識が変わるのはけっこう時間がかかると思われるが、よくも悪くも日本人は一気に意識が変わることも少なくない。たとえば、受動喫煙やCO₂排出に対する意識の変化。ヤマト運輸の問題に関しても、つい先日まで良いと思っていた、ネットショップの当日便や再配達を多用するライフスタイルへの罪悪感を感じている人は多いだろう。

■ 女性の活躍が鍵を握る訳

しかたなくの感があつた日本企業もここに来て大きく変わりつつある。残業短縮や人事評価の変更などで業績を伸ばす事例が多く出てきているからだ。

経営者の意識を変えるのは意外と簡単と言う。なぜなら会社が勝つために必要な改革はするのが企業で、女性の登用・活躍はそのための必然だからだ。女性の活躍に必須の条件は、父親の家庭参画促進、長時間労働や残業のない職場、年功によらない人事評価や再雇用などだ。

人口減による地方消滅の危機も言われるが、ここでも女性が鍵を握る。子育てと両立する仕事がない地方には女性は残らないし、行かないからだ。父親が育児や家事を多くする国は合計特殊出生率が高い傾向にある。日本の若者が結婚しないのは、結婚するリスクが高すぎるから。安心して子供を産んで、意欲を持って復職できる職場環境や社会制度の充実が必要だ。



「うぐいす」(2013年)



「木苺」(2010年)



「兜虫」(2013年)



「蟹」(2008年)

独自の物語を生み出すために、虫や鳥を素材に

金工 竹花万貴

Takehana Maki

1968年 代々木デザイナー学院 ジュエリーデザイン研究科卒業
 1980年 銀花ギャラリーにて個展「骨董ジュエリーの試みⅠ」
 1982年 銀座松屋にて個展「骨董ジュエリーの試みⅡ」
 1988年 ギャラリー三幸にて個展「印象・能」
 2001年 第30回伝統工芸日本金工展初入選「つばめ」「かたつむり」
 2003年 第49回日本伝統工芸展初入選「かまきり」
 2007年 個展「彫金帯留・わが身より あこがれいずる」銀座ミキモト
 2008年 第37回伝統工芸 日本金工展「蟹」日本工芸会賞受賞
 個展「ジャポニズムに想う -彫金帯留-」銀座ミキモト
 2013年 第43回伝統工芸日本金工展「ざくろ」宗桂会賞受賞
 2014年 第44回伝統工芸日本金工展「朝顔」東京都教育委員会賞受賞
 2015年 他数多くの入選をはたす。現在 日本工芸会正会員



日本人独特の自然観を表現する竹花万貴氏。古い着物と帯に日本刺繍で命を吹き込み、ユニークな彫金帯留でそこに物語の舞台を創る。もちろんそれらは一体となつて和装を楽しむためのものだが、彫金帯留はその精巧さと表現力により多方面から支持され、日本伝統工芸展に入選、日本金工展でも3度の受賞をはたしている。今号の前編は工芸としての彫金帯留めに焦点を当てて紹介、次号・後編は刺繍帯を含めた竹花万貴の和装の世界観と楽しみ方を紹介する。

——刺繍帯と合わせた彫金帯留が竹花さんの特徴ですが、この方向に進んだきっかけは何でしたか。

小学生の頃から刺繍は好きで、友達誕生日などに刺繍を施したハンカチや母の日にエプロンを贈っていました。そして宝石箱を作りながら、自分にしかできないアークセサリーを創りたいと夢想していたことが彫金に進むきっかけでした。また、骨董にも興味があり、初期の頃は骨董と金属と組み合わせた作品づくりが主で、1980年の個展「骨董ジュエリーの試みⅠ」、82年の「骨董ジュエリーの試みⅡ」が初期の作品発表の場となりました。——そして、師との出会いもあったんですね。

はい。80年の「骨董ジュエリーの試みⅠ」に染色家の久保田一竹先生が来てくださり、亡くなられる2003年まで、先生の着物の装身具などの制作にたずさわりました。その間は先生の注文に応えるのが精一杯でした。

もうひとつ、81年から師事した浅井盛征先生により、伝統工芸の奥深さを学び、ジュエリーから彫金への転機となりました。

——作品のモチーフはどのように決めるのですか。

周囲の自然から思い浮かぶことが多いです。19世紀にヨーロッパでブームとなったジャポニズムは、単に日本の構図やモチーフに魅せられただけでなく、日本人独特の自然の捉え方に感動したと言われています。私もそう思います。特に清少納言の「枕草子」や和泉式部などの自然を捉えた世界が好きです。厳しい大自然の中で、ひそやかに息づく、か弱いけれど凛々しい小さな生き物たちに感動を覚えます。その感動の記憶から、直感的に作品のイメージが浮かんできます。

小鳥のさえずりや虫の音、水や風の音、季節の移ろいを感じながら制作するようにしています。

——たしかに兜虫や蟻螂など、着物には珍しいですね。着物や帯はもともと花柄が多く、そのイメージに合わせるのと平板なものになってしまっています。わたし独自の物語を生み出すために、虫や鳥を素材にすることが多いです。「かまきり」は着物の柄が虫の行列でした。帯がすすき柄。虫が月に向かって行進しているイメージが浮かびました。それで、この辺にかまきりのような、ちょっと怪しいやつがいたらいいかなど。

——材料や作業工程を教えてください。

彫金に使う金属素材は金、銀、赤銅、黒味銅、黄銅（真鍮）、四分一などです。四分一は金・銀・銅の合金で硬く、銀の配合比率が4分の1のため、こう呼

着物 虫の行列図紋紗訪問着（昭和初期）
帯 すすき図組袋帯（昭和）



「かまきり」(2003年)

ばれています。金属で出せる色は少ないのですが、グラデーションなども工夫して表現します。見る方の想像力にも助けられています。

①デザインスケッチをしたら、②粘土で立体化して形に無理がないか確認します。加工は、③最初に地金の裏から丸味を出した後、④表側から鑿を使って打出しを始めます。だいたい形ができたなら、⑤色を変えたいところに別の金属を口付けし、⑥仕上がりの形に沿って切り取ります。⑦ヤスリで整えた後、細部の象嵌や、つくり、彫りを重ね、⑧入念に炭研ぎをして、薬剤を溶かした煮液で煮込み、色を出します。

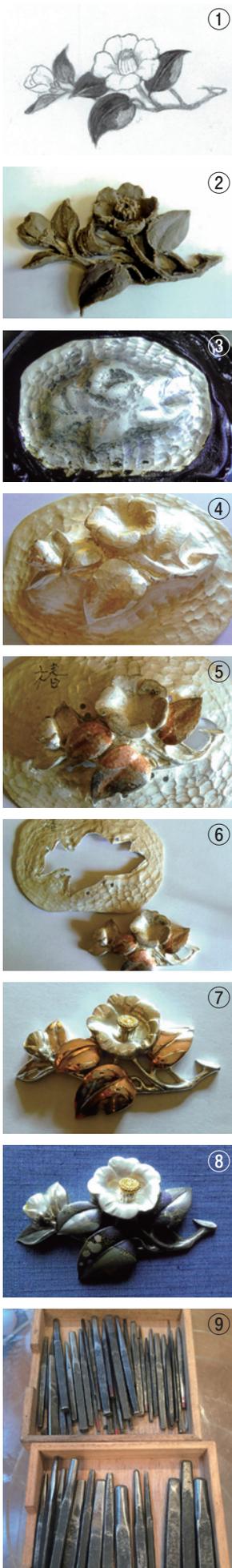
——いろいろな種類の鑿があるのですね。⑨

鑿は彫金の命とも言える道具です。太いものから細いものまで。先が丸いもの、平たいもの。打ち出し用や象嵌用など、その時必要な鑿を駆使しています。



聞き手：上野由美子（左）

古代オリエントガラス研究家。UCL（ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン）考古学研究所在籍中。2012年国際日本伝統工芸振興会の評議員。ARTP副団長として王家の谷発掘プロジェクトに参加（1999年～2002年）。聖心女子大学卒業論文『ペルシアガラスにおける円形切子装飾に関する考察』、修士論文『紀元前2000年紀に於けるコア・ガラス容器製作の線紋装飾に関する考察』ほか、執筆・著書多数。



ハーバード大学クロコディロス 2017日本公演

レポート
6/17～6/25

この近さだからこそ、このノリ!

↑ユースの宿泊客、神楽坂のご近所さんやSNSでつながった人など50名以上がラウンジに集結。

→「What's your name?」。彼女役は絶対に仕込みではないのですが、不思議とノリ良く一緒に踊ってくれます。



ハーバード大学の男声ア・カペラグループ(クロコディロス)の日本公演が、今年も東京と京都で開催された。東京では、恒例の倶楽部グリーとの共演や、財団協賛会員コーチ・エイ主催のイタリア文化会館アネッリホールでのコンサートなどが開かれた。また、メンバーが宿泊する神楽坂のユースホステルでも、おしゃやかなバーカウンターの前で、手が届く近さのミニコンサートが開かれたので取材した。京都では、京博連事業実行委員会と京都市教育委員会と共催し、色々なジャンルのミュージアムを巡ってミニコンサートを開催した後、京都堀川音楽高校のホールで、今年の日本公演のフィナーレを飾った。



↑帝京平成大学沖永記念ホールにて、早稲田大学OBの倶楽部グリーと11回目のジョイントコンサート。

→ライブ後の交流タイム。神楽坂で書道と着物のデザインをする女性アーティスト2人組にメンバーも興味津々。



→UNPLANのオーナー福山大樹さんは財団事業部長・佐藤梨奈とも友人同士。計画に縛られない気ままな旅人を応援したく宿名に託したそうだ。普段から8割は外国人客とか。
www.unplan.jp



↑なんと13人いるけど、客席にOBがいたら一緒に踊っていいという楽曲なのです。



夕刻のUNPLAN外観





そして京都では ミュージアムコンサートを たくさん開催!

↓清水寺の仁王門にて大西皓久執事補とともに。



↑当日放送のNHK京都「630京いちにち」に録画出演。司会の方もノリ良くポーズ。



→京都国立博物館にて。コンサート後、観客との写真撮影など交流も行われた。

↓2016年の漢字「金」が展示された漢字ミュージアムでミニコンサート。

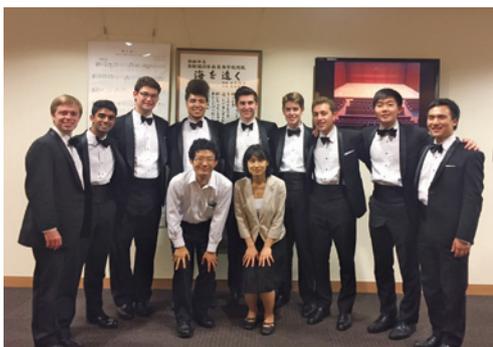


↓京都国際マンガミュージアムのグラウンドにて。屋外なのでのびのびアクションできます。



↑細見美術館でのミニコンサートも好評でした。

↓最後のステージが行われた京都堀川音楽高校ホールにて、京都市の河合課長補佐、那須さんを囲んで。



↑みなさん、Tシャツ買ってくれましたか？ TシャツとCDの売上は世界ツアーの資金源。



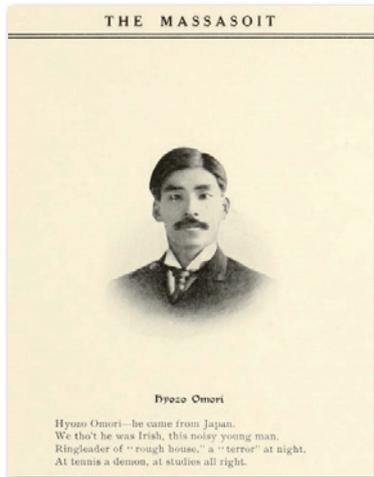
↑茶道資料館にて日本文化の一端・茶道体験

財団ホームページもご活用ください



スプリングフィールド大学ホームページのデジタルコレクションでは、在学中の大森兵蔵の写真や手書きの手紙などがアーカイブされ、見ることができます。

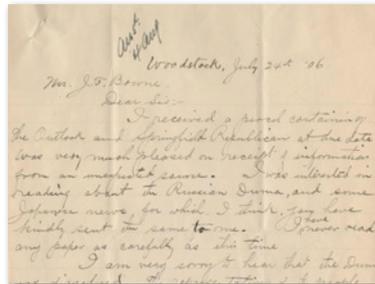
▼Main Digital Collections:
<http://cdm161122.contentdm.oclc.org/cdm/search/collection/p15370coll2/searchterm/Hyozo/order/date>



Hyozo Omori—he came from Japan. We tho't he was Irish, this noisy young man. Ring-leader of "rough house," a "terror" at night. At tennis a demon, at studies all right.

日本のオリンピックの父と言われる大森兵蔵が残したもの

財団理事長・松田妙子の大叔父にあたる大森兵蔵は、国際YMCAトレーニングスクール（現スプリングフィールド大学）で体育学を学び、バスケットボールやバレーボールを日本に紹介。大日本体育協会を設立し、日本が初参加したオリンピック、1912年のストックホルム大会を監督として率いました。



大森兵蔵の歩みを紹介した財団のホームページ

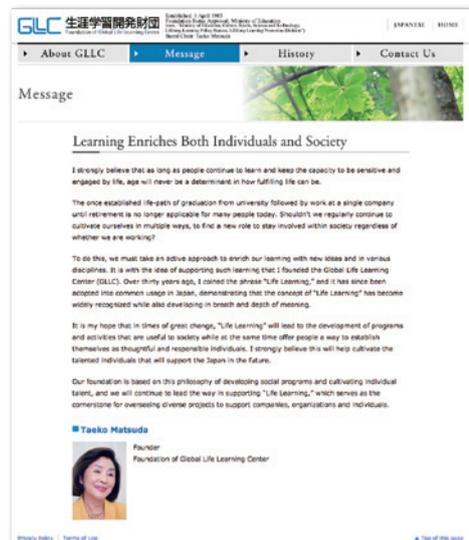
他の会員ともつながれます

LLメンバーズ一覧では、ホームページをリンクしています。ご覧になります。ご覧になりたい場合は、キーパーソンを紹介しますのでご連絡ください。



英語での発信も進めています

英語による重要なメッセージの発信や、松田妙子の足跡をライブラリー化（準備中）するなど、海外の人や若い人たちにも生涯学習の大切さを訴える取り組みをしています。



記事を動画でもフォローできます

財団主催シンポジウムやトークセッションなどは、紙面で紹介した記事以外にいくつかの場面を動画で紹介しています。

